その音(サウンド)が殺人のプレリュードだった！

ADELPHIA FIR
RE MEDIC UN

■ブライアン・デ・パルマ監督作品／ジョン・トラボルタ／ナンシー・アレン／ジョン・リスゴウ／デニス・フランツ

ミッドナイトクロス

BLOW OUT

〈カラー作品〉
アメリカ映画
日本ヘラルド映画

Herald

製作●ジョージ・リットー／監督・脚本●ブライアン・デ・パルマ／音楽●ピノ・ドナジオ　ジョン・トラボルタ／ナンシー・アレン／ジョンリスゴウ／デニス・フランツ

「キャリー」、「殺しのドレス」の2作品をご覧になった方は、エンディングの、想像を絶するショックを、まだはっきりと記憶されているに違いない。

映画が終ったと思わせておいて、そのあとに、凄じいショックシーンを用意しておき、それを眺めてニンマリする――ブライアン・デ・パルマ監督、独特の映画造りである。

その彼の最新作「ミッドナイト クロス」はまた〳〵「話題満載」号には違いないのだが、こんどはラストよりもトップシーンに、驚くべきシーンが用意された。

したがって、このファーストシーンだけは書くわけにはいかないのである。

疑問と不安を感じながら、この冒頭の7分間に見入るうちに、やがて霧が晴れていくように、映画そのものがカオを出してくるという趣向。

舞台は東部のフィラデルフィア。ある、三流映画会社（ホラーばっかし作っている！）のサウンド（音響効果）エフェクト・マンのジャックは、目下製作中の〝大作〟恐怖（恐怖映画）作品にどうしても華麗極まりない〝悲鳴〟が欲しかった。そして、そのバックにはこの世のものとも思えない優雅な風の音が欲しかったのである。

そこで、仕事熱心な彼は、風の音を収録すべく夜中に郊外へ出かけた。彼が突き出した集音マイクは、フクロウや虫や、あまつさえ、アベックの甘いささやきまでとらえて、仕事は順調だった。

と、一台の車が、ぐん〳〵加速しながら、眼下のハイウェイを突っ走ってくるのが見えた。ハイウェイはジャックが立っている丘から下方を登ってきて、川に架かる橋を渡り、また山の端へ消えていくようになっていたが、橋の直前で、どういうわけかその車は、突然何かのショックに身を震わせると、加速したスピードそのままに欄干にぶつかり、もんどりうって川に飛び込んだ。闇の中に白い飛沫が派手にあがった。

目撃したジャックは、転げるように坂を駆けおりてザンブと川に飛び込んだ。

その時、彼の集音マイクとテープはそのまま仕事をつづけていた。

車に乗っていたのは次期大統領の有力候補、そして、同乗していたのは、まだ若い、ガールフレンドのサリーだった。

男は即死、女はジャックに助け出された。

事件はここから急転回を見せる。

単なるパンクと見られたこの事故は、実は仕組まれた〝暗殺〟かもしれないのだった。何故なら、ジャックが収録したテープは、パンクの前の銃弾の音をしっかりととらえていたのである――。

それに気づいた〝組織〟が彼を追跡する。生き残った女の命を狙う。その女に惚れてしまうジャック……。映画は息をもつかせぬサスペンスで観客を巻き込んでいく。

主演はジョン・トラボルタ。ノーマルな現代青年が、思いもかけない事件に巻き込まれ、持ち前の正義感に燃えて、組織に立ち向っていく。女への愛のために、命を賭けていく――好演である。

相手役のサリーは「殺しのドレス」の気のいいフッカーを演じたナンシー・アレン。男から見ても、女から見てもかわいい女、いい女を〝地〟で演じてうまい。

撮影は「ディアハンター」「未知との遭遇」のビルモス・ジグモント。音楽は「殺しのドレス」のピノ・ドナジオ。編集は「スターウォーズ」のポール・ハーシュ。美術は「クレイマークレイマー」のポール・シルバート。超一流のスタッフである。

（アメリカ映画／シネマスコープ／1時間48分）

3月華麗なるロードショー！

日比谷映画 (591)5353

歌舞伎町コマ劇場隣り 新宿プラザ (200)9141

道玄坂・緑屋前 渋谷東宝 (461)2268

国電・地下鉄関内駅北口下車 横浜東宝 045(641)8531